

岡田宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第6号

昭和63年7月吉日

発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番地
郵便番号 806
電話 621-1898

夏越祭

(七月二十九日)



昨年の茅の輪をくぐる善男、善女

夏越の大祓神事を七月二十九日午後六時より執り行ないます。

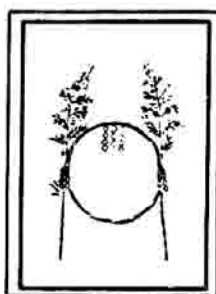
社頭に茅カヤの輪を設け、その茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄とを招来するという古式に則った夏越祭を厳修致します。

ご参拝の方は上記の形代に御家族の住所、氏名、年令とを書いて、各自の息を吹きかけ初穂料を納めお参り下さい。ご参拝の方には「お札」と「茅」を授与致しますので、魔除として、玄関に奉斎して下さい。

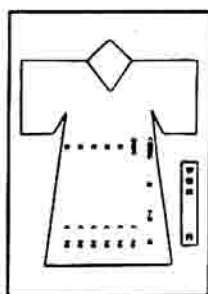
当日、お参り出来ない方は前もって社務所で形代をおあずかり致します。

産土
森神

守護



形式(表)



形式(裏)

神社なぜ問答

(その5)



岡田神社の神々の神徳について

岡田神社の御祭神についてたびたび質問がありますので、今一度此の欄を利用して頂くことにします。即ち、当神社の御神殿、中央の御神座の鎮り給ふ神を、神日本磐礼彦命と申し上げます。これは、日本初代の天皇様であらせませす神武天皇様の謚名であります。次に、御神座に對面して右座に鎮り給う神々は、大國主命、少名彦命、熊野主命、となつています。大國主命は皆様がよくご存知の出雲大社の御祭神ですが少名彦命についてはあまりご存知でない方が多いようです。実は此の神様は、大國主命が国をお聞きになる時、海の彼方よりこの国へお歸りになつて、命と御兄弟の契りを結ばれ國造りに大変協力されました神様です。また、此の神様は医薬、治療の道をお聞きになり人々を病からお救いになりました。此の神様は非常に小さくて天神の指の間から漏れたので何処に行かれたかわからず探しておられたのですが、山かがみの実の靴を舟にして白い鳥の羽毛で作った衣服をまとい海を渡つて歸つてこられ、大國主命の國造りに協力されたこと、古事記に述べてあります。後に、三輪山の大神神社の

御祭神になられました。

熊野主命は、此の地方の豪族の祖先です。だから此の附近に熊手とか、熊西とか、熊や鶴のような強い動物にあやかつた名が残つているのだと思います。

次に左側に御鎮座の神は、八所の神と申します。古くから鎮魂八柱神と申しまして天皇家の祭神として今でも宮中の神殿(御三殿)と申し上げまして、賢所、皇靈殿、神殿に鎮座し給ふ神々です。

次に八柱神の御神徳を述べます。

一、高皇産靈神、神皇産靈神は天地が開ける時に高天原に成ませる神で、天御中主神と共に神道の根元神と云はれ、私等は造化三神と申し上げています。

一、足産靈神、玉留産靈神、生産靈神は、我々人間の遊離する魂を身体の内にも鎮め留る神々で鎮魂の神として靈魂を司どり給ふ神様だと申し上げるまでにしておきます。

つまり以上の五神は魂をムスビ鎮め、生かし足らはした鎮魂の境地を言つたもので神の心を得たものにして初めて神のお言葉がわかると解説させていただきます。

一、事代主神は、言葉を司どり給ふ神で別名を一言主神とも申します。何事も確信をもつ事でありませす。大國主命の國譲りに「避り奉るべし」と一言で決定されたように決断力をお持ちの神様で美保神社の御祭神として皇室のご尊敬を受けていられます。

一、御食津神は食物の祖神と申して、伊勢外宮の御祭神である豊受姫命と同神で、保食神、倉稻魂神とも申し上げ、農耕民族にとつて稲はその魂を養ふ大切なものとされ、五穀を守る神として仰がれています。

一、大宮姫命は天照大御神の大御前に斎神と申します。即ち君臣の間や、神人の間を執り持ち、和平を計り給う神とされ平田篤胤翁は此の神は天字受売命の別命だと申してゐられます。

以上、紙面の都合で簡単な説明になりましたが、何れ

にしましても、御祭神は神位尊い神々で、私どもの祖先が遠く神代の時代から信仰し、現在も氏子崇敬者の敬神の中核となつてゐます。

参考書籍 神道大辞典、大道神祇、古神道秘説、大祓詞と信仰。

神社参拝の作法

神社参拝には、先づ身を清めることが大切です。その意味を深く心に秘めて手水を行つて下さい(手水の作法は手水舎の内側に書いてあります)次に神前に進みましたらお鈴を軽く振つてから御神拝の作法を次のようにします。

一、先づ上体を約十五度かがめてお辞儀をします。次に、最敬礼(約九十度上体をかがめる)を二回します。

次に、胸前に両手を合せ嚴肅に拝詞を申し上げます。次に、拍手を二度します。(両手を合せ、左右に開いて打合せ)

次に、最敬礼をもう一度します(九十度)

次に、初めと同じようにお辞儀をします(十五度)次に、神前を約三步退き向を変えへ目的の方へ進みます。

日常の心得

朝は早く起きて顔を洗い口を漱ぎます。

次に、東方に向い(伊勢神宮)を遥拝します。遥拝の要領は神前の作法と同じでよいでせう。

次に、自分の家の神棚に拝礼します。

次に、家の祖先の靈舎に拝礼して下さい。

次に、家族の皆さんに「お早うさま」と朝の挨拶をして下さい。

毎日欠さずに続けて下さい。きっと良い事があると確信します。



記

三歳
昭和六十一年生
五歳
昭和五十九年生
七歳
昭和五十七年生

※年齢はかぞえ年です。

七五三祭は、子どもの成育にとまない折り返し、切り目に神社にお参りして、いつそうの息災成長を祈る行事です。
三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行なわれた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その後を通じてにぎやかなお参りが行なわれます。
なお、昭和六十三年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

郷土地名考 ⑥

十三塚 各地にある地名。「筑前国統風土記附録」や「同拾遺」は小さな塚が一二あった由記している。由緒不詳。一三仏との関連も不明。

茶売 不明。サ(接頭語)十ウリ(小さい谷)か。

山寺 黒崎宿設置以前の本村という。前熊手ともいう。昔この附近に寺院が多かったので山寺という由。「筑前国統風土記」は開蔵庵・径竹庵を挙げています。

小田 青山一丁目一番より桜ヶ丘町附近。オダは狭い耕地や砂地を意味するが、いずれであらうか。

皇后崎 神功皇后伝説の地。コーガ(未墾地)十サキ(岬)であらう。

鷺田 旧山林地帯。鷺田(穴生)・鷺山(穴生)・小鷺田と鷺の字のつく地名が近辺にもあるが鷺との関係不明。

小鷺田 小十鷺田。

上茶売 上十茶売。

山ヶ岬 京良城の城石堤の附近。京良城町一・一・二・一三番、幸神二丁目九・一〇番地。文字通り「山の岬」の意。

京良城 キョラゲ。古くは京良下とも書く。木浦木(宮崎県)・教良木(熊本県)・厳木(佐賀県)と種々の字が当てられている。意不明。

大畑 オウ(峰)十ハタ(耕地)であらう。

黒ヶ畑 不明。クロを境とすると「丘の耕地」、畔とすると「岸の耕地」であるが、弥生遺跡の存在など考えると前者かもしれない。日当りは悪くないので土の色の黒ではないと思える。

桶(ほばしら) 帆柱山麓。

3、大字藤田の小名

藤田も熊手同様に昭和初期の区画整理により黒崎中心部が整理されてから、一部不明になっている。

花ノ尾 花尾山麓。花尾は「ハナ(端)十オ(峰)」か。市瀬鷹見神社三月の花の祭に「花を捧げし岳を花の尾と名がつく」と同社縁起にある。

広河原 花尾と河頭の山麓、中央高校の附近であり、「広十カワラ」。カワラは川床や礫地をいう。双方が考えられる。

山ノ田 字義通り。中央高校の所。

御登 花尾中学校附近、古道の拝み坂を登った所。鳥野春日神社に関連をもつかもしい。

上ノ銘 中世の名、黒崎に移る以前の藤田の本村、

向原 向い側の開墾地

油田 黒崎地主山王権現の御供田という。灯明の油代の意であらう。この周辺は区画整理後は葦原町と呼んでいた。

陣山 天慶の乱で源経基布陣の伝説がある。

ジンは「山腹の小平地」に多いが、古図では妙見山の東の小山を陣山としている。火山性の台地の可能性もある。

妙見 妙見山に因む。御崎神社（妙見神社）と山名の前後知らず。

野間 西鉄電車と妙見の間。沼地を意味する。猪ノ尻 水路のある野の末端。

辻 陣山小学校の附近。丘の意か。

御屋敷 陣山電停附近。井上家臣の宅跡。

東浜 陣山電停附近より北。現在の東浜町一番は陣山・野間・妙見。

西浜 妙見開作の東浜に対する西浜か。

中ノ坪 中ノツボ（くぼみ）か。

久喜 洞の海のクキ。和名類聚鈔にクキは「山

穴の袖に似たるなり」としている。「通り抜

けの所」、「山間の細道」のことである。

清納 山王神社（大比叡神社）の清能祭に因

むか。

入尾 谷の奥の峰、山寄りの峰。

城ノ尾 清納二丁目附近、花尾山の山裾の延

びた所。

隈崎 前出「熊手」の熊崎に同じ。「延喜式」

の「筑前国駅馬」の項に「……石瀬・長丘・

把伎・広瀬・隈崎・伏見・綱別各五疋」とあ

り、古来、隈崎をここに比定されているが、

駅が「独見・夜久・島門・津日・席打……」

の如く道順に記されていることよりすると該

当しない。

河頭 古図には岩洞山ともある。「石のごろ

ごろしている所」であり、土堀のある所。藩

政期には石切場でもある。

平ノ尾 ヒラ（傾斜地）十オ（山裾）。平尾

町八番附近。

養田 サル（小石の多い所）十田。

奉納記



S.62.11.吉日 テント一式
末益 友之助（為喜寿賀）

S.63.1.吉日 テント一式
加瀬 康一（為米寿賀）



S.62.4.吉日
千歳会 大権一対流「二十周年記念」

編集後記

- 朝早く、境内の掃除をご奉仕して下さる方々がおられます。この場をかりまして、厚く御礼申し上げます。
- やつとこのごろ北九州の経済も上向きになつて来たようです。皆様方のご多幸を祈念いたします。
- 好評の「神社なぜなぜ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。

- 祝祭日には国旗を掲げましょう。
- 一日、十五日には神社に参りましょう。